

# なかよしタイム(長時間保育・預かり保育)の方針

## 教育・保育目標

〔地球の中で〕 持続可能な未来に向けて、保育者や仲間とともに考え、行動する子ども

### 〔自分から〕

主体的に行動して  
なじみの世界を広げ、  
自分でやったという充実感を  
感じながら生活する子ども

### 〔創造する〕

試行錯誤しながら探究し、  
新しいものや自分なりの考え、  
方法を創造し、表現する子ども

### 〔人とともに〕

ありのままをわかりあい、  
分かちあい、  
活かしあう子ども

## 《教育時間となかよしタイムとの好循環》

なかよしタイムでは、ゆるやかなのつながり(時間、空間、対象、人)を可能とする暮らしを基盤に、一人ひとりがやりたい活動に取り組み、多様な人につながることを通して、教育時間での学びとの好循環を目指す。

〔暮らし〕 ゆるやかな暮らしの中で明日へと向かう力を蓄えるとともに、異年齢集団の暮らし中で自分の役割を果たすことで自信をつけ、主体的に取り組む力を育む。

〔遊び〕 長い時間遊びを継続することで、遊びを広げたり深めたりし、それを再び教育時間に返していくことで相乗効果を生む。時に、次の日の遊びの活躍者になるきっかけともなる。

〔人〕 異年齢の友だちや担任以外の保育者との関わりを広げて深めることで、教育時間においてもクラスを超えているような友だちや保育者と関わる楽しさを知り、協同する力を育む。

## 「なかよしタイム」ならではの大切にしたい体験

### 〔暮らし〕

ゆるやかな時間の中で、午後の暮らしを丁寧に送り、健康で安全で充実した生活をつくっていく

- ・少人数かつ異年齢の生活の場だからこそ発揮できる自分の力に気づき、自信をもって過ごす。
- ・異年齢で生活する中で、役割を引き受け、準備や片付け、当番活動などを進んで行う。
- ・教育時間の振り返りと気持ちの整理をする。
- ・一人ひとりに合った生活のリズムを整え、基本的な生活習慣を身につける。
- ・午睡やおやつなど、多様な生活経験を共にする中で、生活をより豊かにする。
- ・個々のペース、個々の切り替えのタイミングで過ごすことで、生活のリズムを創り出していく。
- ・くつろいで過ごし、緊張感と開放感の調和をとる。
- ・心身の疲れを癒す(休憩タイム・午睡)

### 〔遊びを広げる・深める〕

教育時間の遊びをさらに広げたり、深めたりする贅沢な時間と空間を楽しむ

- ・教育時間と同じ場で、遊びの続きを展開し、じっくり没頭して遊びを深める。
- ・なかよしタイムでしかできない遊び(例えば、夏の夕方散歩・ふんだんにおもちゃを使った遊び・時間や支援を要するボードゲーム等のルールのある遊び)をし、遊びの幅を広げる。
- ・少人数で園の環境をぜいたくに使用してあそび、活動の展開の多様性に出会う。
- ・異年齢の友だちのしていることに関心を持ち、まねて遊び、自分なりに試したり、工夫したりする。
- ・多様な保育者や友だちと接することで、異なる視点、考え方、感じ方に気づき、遊びの幅を広げたり、深めたりする。
- ・虫や動物、植物など、園内の自然の1日の中での変化を肌で感じ、気づくことができる。
- ・教育時間と同じ活動(絵本を読む・戸外で遊ぶなど)でも、午後のやわらかな日差しや夕暮れの中で体験することで、異なる味わいを楽しむ。

### 〔多様な人につながる〕

教育時間とは異なる人との出会いの中で、人への親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを知る

- ・様々な年齢の友だちと接する中で、相手も自分も気持ちよく過ごすために、友だちの思いや考えを受け止め、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- ・異年齢の友だちに頼ったり、頼られたりする経験を通して、互いのよさを感じながら友だちへの愛着や信頼感をもつ。
- ・異年齢の友だちと小集団で密に関わることで、あこがれや慈しみの気持ちを育む。
- ・担任以外の保育者や友だちの保護者、地域の大人と接する中で、自分が大切にされることを実感し、様々な人に甘えたり頼れるようになる。
- ・保育者や職員の働く姿、地域で働く人々接することで、人の活動のおもしろさ、多様性に触れる。
- ・積極的に、地域の生活や季節の行事に触れ、地域社会や文化への理解を深める。

## <長期休み中の保育(2号認定の教育時間を含む)ならではの大切にしたい体験>

- ・友だちや保育者などの保育環境の変化、夏の暑さや冬の寒さといった自然環境の変化の中でも、いつもの暮らしを丁寧に積み重ねることを基盤として、異年齢の友だちと協同しつつ、1日そして長期間をかけてじっくりとやりとげる面白さと達成感を味わう。

### <教職員の連携>

- ・園児の1日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮し、一人一人の情報を密に共有する。日々の振り返りから子どもの姿をみとり、ねらい、環境構成・援助の意図について共通理解のもと、保育にあたるようにする。
- ・教育時間となかよしタイムでの経験の好循環を生み出すように、子どもたちのくらしや遊び、人とのつながりを保育者が架橋する(ドキュメンテーションなども使用)。
- ・クラス担任が定期的になかよしタイムの担当保育者として保育にあたることで、〔多様な人につながる〕で大切にしたい要素を促進する。

### <子育て支援・地域との連携>

- ・送り迎え時の情緒的サポート、気持ちの切り替えの手伝いをするなどで親子を支える。
- ・忙しい保護者の方も子どもの日々の姿を理解しやすいように、ドキュメンテーションなどを活用して伝える。
- ・保護者同士のおしゃべり場(異年齢学年の親同士の交流)や先生との立ち話の場を設定することで、気軽に相談できる雰囲気をつくる。
- ・大学内や地域の神社・公園へ散歩を通して、地域との関わりを深めるとともに認定こども園の役割を知ってもらう機会とする。
- ・大学のえほんのひろばなど、地域の資源を活かした保育を展開する。
- ・地域の施設や園庭開放での交流(ホーム訪問・こども園に遊びにきませんかの日)などを通して、子どもたちが地域の中で過ごす時間を増やす。